



知床科学委員会 しんぶん

エゾシカ・ヒグマ

ワーキンググループ NO.19



2019年12月3～4日にエゾシカ・ヒグマワーキンググループ会議が釧路市で開催されました。今回は、今年の知床におけるヒグマ出没状況や被害状況の速報、また対策の進捗等が報告されたほか、2018年度冬から2019年度春にかけて実施されたエゾシカ捕獲事業の報告や課題について話し合われました。

ヒグマについては、羅臼町の現状等を伝える手段としてこの知床科学委員会しんぶんを積極的に活用すべきとの指摘がありました。



ヒグマによる被害を防ぐには

ヒグマによる飼い犬被害が3件発生した2019年の羅臼町。被害を出したヒグマは、いまだ捕獲されていません。今後の被害を防ぐために以下の対応を心がけましょう。

飼い犬が襲われた現場は、このような環境でした。



家のそばに
ヒグマが潜める藪が!



ワンワン!



フキやイラクサは、ヒグマの主要な食べ物です。このような環境がヒグマを寄せる要因になります。

藪を刈れば、見通しが良くなって、ヒグマも近寄れませんね!

藪を刈り払う!



藪を刈り払うことで、ヒグマが潜みにくくなります。

ヒグマの出没対策として、藪の刈り払いが有効です!

SNS でヒグマ情報発信しています

公益財団法人 知床財団のホームページ「知床のひぐま」(<https://brown-bear.shiretoko.or.jp>)のほか、メディアの多様化に合わせて各種SNSによる情報発信も実施されています。写真や動画によるヒグマの生態や注意点が紹介されています。



@Bear Safety Shiretoko



@bear_shiretoko



@bear_safety_shiretoko

2019年12月のエゾシカ・ヒグマワーキンググループでの議題に関連して

注目

今冬のシカ捕獲事業に向けて

会議では今冬のシカ捕獲事業の内容が示され、意見交換が行われました。今冬は5地区で計309頭捕獲することを目標に事業が進められることが確認されました。

知床世界自然遺産地域とその周辺では、生物多様性保全のためのシカの管理捕獲が2007年から行われています。ヘリコプターを利用したカウント調査によれば、知床岬地区で確認されるシカの数2002年から2018年にかけて1/10程度に減少しました。その結果、一部地域で植物が回復するなど、目に見える成果が確実に出てきています。



今冬の捕獲目標

【遺産地域】

- ・幌別岩尾別地区(斜里) 100頭(126頭)
- ・ルサ・相泊地区(羅臼) 70頭(80頭)
- ・知床岬地区 44頭(11頭)

【隣接地区】

- ・ウトロ・真鯉地区 65頭(59頭)
- ・春刈古丹(羅臼) 30頭(20頭)

合計309頭

*カッコ内は前年実績の捕獲頭数
*環境省と林野庁の実施分のみ掲載

注目

捕獲したシカの利活用

知床には現在、捕獲したシカを受け入れ、食肉やペットフードとして活用する民間施設が2箇所あります。利活用施設が立地する斜里町では利活用が進む一方、利活用施設が立地しない羅臼町では利活用が進まず、廃棄のために処分費用を支払わなくてはならないという課題があります。また、シカの捕獲が奏功しシカの生息頭数が減少すると、捕獲されるシカの数減少する(＝利活用施設で扱うシカ肉の数が少なくなる)というジレンマも見えてきました。

地域の資源でもあるシカをどのように活かしているのか、まずはこれまでの利活用や捕獲の現状を把握しつつ、関係機関・団体と協議・連携しながら、その道を探っていく必要性が提起されました



ヘリコプターを利用した調査の様子(2019年2月)



シカを食肉やペットフードに加工する利活用施設(斜里町)

公開情報は、すべて知床データセンターに掲載されています。
<http://dc.shiretoko-whc.com/>

■問合せ先■

環境省釧路自然環境事務所

〒085-8639

北海道釧路市幸町 10-3 釧路地方合同庁舎 4階

TEL 0154-32-7500 FAX 0154-32-7575

